

# 福岡県では九州医療センターが、令和4年度の 脳卒中・心臓病等総合支援センターモデル事業を担当

脳卒中・心臓病等総合支援センター(Comprehensive Support Center for  
Stroke and Heart Disease Patients) ⇨

脳卒中・心臓病等総合支援センター⇨

ご相談を希望される方は[こちら](#)をご覧ください。⇨

脳卒中・心臓病等総合支援センターは、大きく分けて以下の3点をその業務の目的に掲げています。⇨

- (1)脳卒中および心臓病に関する相談↓
- (2)セカンドオピニオン外来↓
- (3)脳卒中および心臓病に関する情報の発信↓

さらに当院の対応の特徴として、医師のみではなく、脳卒中療養相談士、心不全療養指導士などの資格を有する看護、薬剤師、地域連携室の医療福祉相談員等のメディカルスタッフ、医療・福祉関連の専門スタッフを配置し、充実した体制をとっております。↓

したがって、併発する疾患を初めとした直接的な脳卒中および心臓病の診断治療に関するご相談以外にも、薬剤や看護、リハビリテーション、食事内容から保険制度等まで、広範囲のご相談にお応えいたします。⇨

## 脳卒中・心臓病等総合支援センター 開設のご案内

### 脳卒中・心臓病等総合支援センター開設について

厚生労働省の令和4年度事業として全国10都道府県（福岡県では九州医療センター）に脳卒中・心臓病等総合支援センターが開設されました。

九州医療センターでは福岡県の循環器病対策推進計画と連携して本事業を推進します。

事業の主な内容は脳卒中、心臓病等の患者さんに対する患者相談窓口の設置、福岡県民を対象とした研修会、かかりつけ医と医療従事者に向けた研修会の実施、啓発資材の開発などです。



### 相談窓口について

相談無料

患者相談窓口では**医師、薬剤師、管理栄養士、リハビリテーションスタッフ、医療ソーシャルワーカー、脳卒中・心臓病等担当看護師**が、脳卒中や心臓病等と診断された患者さんとご家族の**生活上の注意点、療養場所、後遺症や仕事と治療のことなど**、様々な疑問や不安に対し、お話しを聞かせていただき、悩みに応じた解決策を一緒に考えていく支援を行っています。

受付時間 平日9:00～16:00（予約制）  
TEL：092-836-5003

対応窓口 地域連携室看護師  
※入院中の方は病棟看護師



独立行政法人 国立病院機構九州医療センター

〒810-8563  
福岡市中央区地行浜1丁目8番1号

2022. 8. 22より入院患者対象に運用開始  
2022. 9. 26よりホームページで公開  
県庁でも広報を開始



AA 文字サイズ・背景色変更

音声読み上げ

Foreign language



テーマから探す



目的から探す



組織から探す

Google 提供

検索

[トップページ](#) > [記者発表資料](#) > 県内初！！脳卒中・心臓病等の相談窓口を開設します！～県内の患者・家族からの相談受付を開始～

## 県内初！！脳卒中・心臓病等の相談窓口を開設します！～県内の患者・家族からの相談受付を開始～

情報が見つからない時は

重要なお知らせ

[新型コロナウイルス感染症ポータルページ](#)

発表日：2022年9月21日



担当課：保健医療介護部がん感染症疾病  
対策課

直通：092-643-3576

内線：3167

担当者：中牟田・梅田

県内で初めてとなる循環器病に関する総合的な相談窓口「脳卒中・心臓病等総合支援センター」が九州医療センター内に開設されることをお知らせいたします。

# 脳卒中・心臓病等総合支援センタープロジェクトチーム

1 院長	
2 副院長	統括責任者
3 統括診療部長	
4 脳血管センター部長	脳卒中代表医師
5 循環器センター部長	循環器代表医師
6 救命救急部長	
7 リハビリテーション科医長	
8 MCセンター副センター長	医療総合支援
9 循環器科医長	
10 看護部長	看護部統括者
11 副看護部長	看護部副統括者

12 病棟師長	脳血管センター
13 病棟師長	循環器センター
14 地域医療連携室師長	
15 地域医療連携室副師長	相談窓口担当
16 栄養管理室長	食事・栄養
17 副薬剤部長	薬剤
18 理学療法士長	リハビリテーション
19 医療社会事業専門員	医療制度・費用相談
20 医療社会事業専門員	医療制度・費用相談
21 事務部長	事務部統括者
22 経営企画室長	医事部門統括者
23 庶務班長	管理部門担当

- 医師   ■ 看護師   ■ メディカル  
■ 医療ソーシャルワーカー   ■ 事務部

プロジェクトチームの会議は毎月第一月曜日16:30-17:20

1. 相談事業: 受付に関するシステム作り 相談内容の収集と分析
2. 研修事業: 研修の企画、関係者への依頼、案内作り  
かかりつけ医、保健師、薬剤師、リハビリテーションスタッフなど
3. 市民講座: 日本脳卒中協会、日本循環器学会との連携
4. 資材開発: 脳卒中協会動画の活用、県独自の資材開発など

# 相談リーフレットの作成

脳卒中・心臓病等  
総合支援センターでは

脳卒中や心臓病等と診断された患者さんとご家族の様々な疑問や不安に対し、脳卒中・心臓病等に関する担当者がお話しを聞かせていただき、悩みに応じた解決策を一緒に考えていく支援を行っています。

医師  
薬剤師  
管理栄養士  
理学療法士  
医療ソーシャルワーカー

脳卒中・心臓病等担当看護師

- ◆心不全療養指導士
- ◆脳卒中療養相談士

〒810-8563  
福岡市中央区地行浜1丁目8番1号



独立行政法人国立病院機構  
九州医療センター

TEL 092-852-0700 (代表)



独立行政法人国立病院機構  
九州医療センター

脳卒中・心臓病等  
総合支援センター



相談・受付時間：

平日9:00～16:00

(予約制)

相談対応窓口：地域連携室看護師  
入院中の方は病棟看護師

九州医療センター脳卒中・心臓病等総合支援センター 2022年9月

九州医療センター脳卒中・心臓病等総合支援センタープロジェクトチーム委員会資料、2022年9月

# 相談リーフレットの作成

## ご利用までの流れ

1. 地域連携室の看護師や病棟の看護師に相談し、予約を取ります。



2. 予約された日時に面談



3. 相談内容に応じて、主治医や他部門と連携して対応したり情報提供を行います。

## 対象となる方

脳卒中や心臓病等がある患者さんやそのご家族

## その他

※面談時間はお一人につき30分程度を予定しています。  
※面談場所はその都度お知らせします。

患者さんをご家族が病気や治療について理解を深め、納得のいく選択ができるよう診療科医と連携し、脳卒中や心臓病等に関する担当者が個別的かつ継続的に支援します。

定期受診の必要性や疾患との向き合い方、今後の人生をどう過ごしたいかを一緒に考えます。

経済的な問題、仕事と治療の両立について個別性のある支援を考えます。

自宅でのリハビリテーションが適切にできるよう相談を行います。

食生活で気を付ける点や内服薬の効果や注意点について栄養指導・薬剤指導を行います。

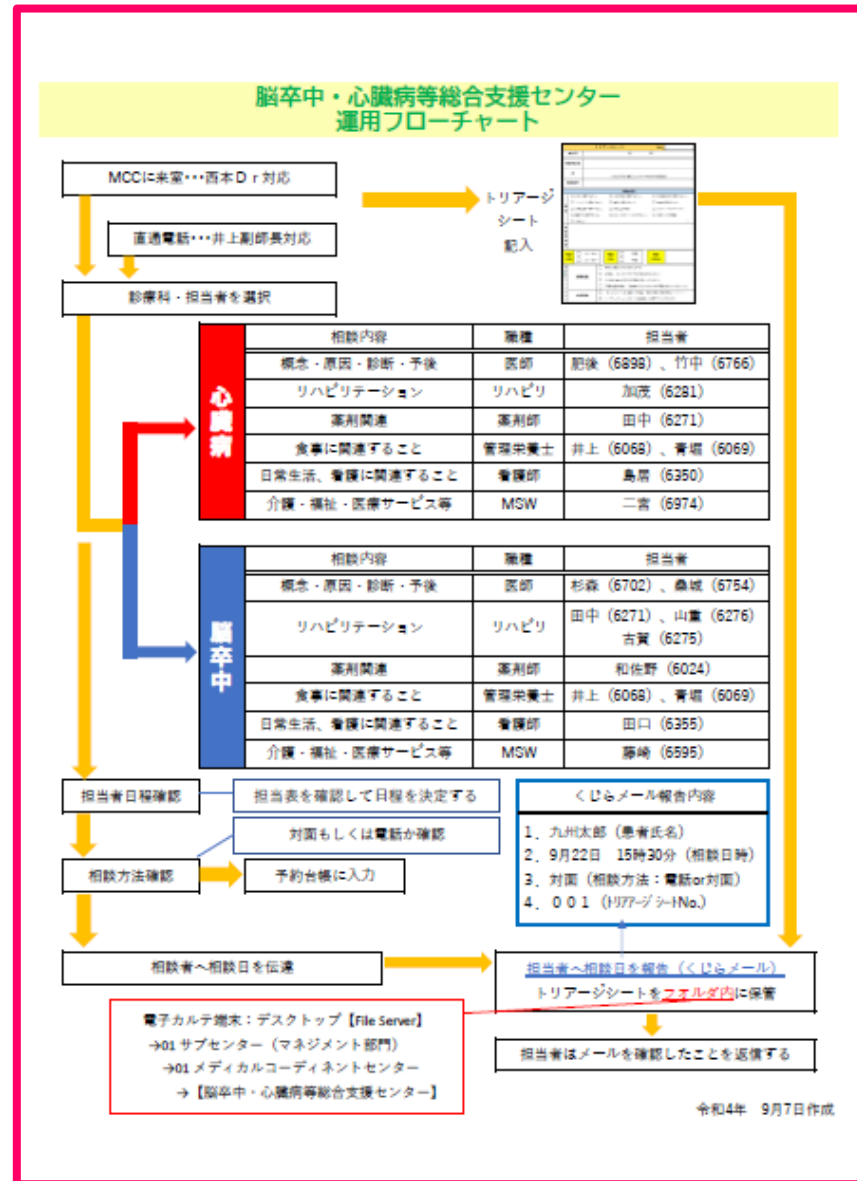
脳卒中や心臓病の病気や治療について専門医が相談を受けます。



# モデル事業 相談トリアージと運用フローチャート

トリアージシート		No.	
受付日	月 日		
相談者氏名	ID	※当院受診歴がありIDがある場合	
電話番号			
他院入院中の確認	<input type="checkbox"/> 入院中	<input type="checkbox"/> 入院していない	
相談内容			
項目	<input type="checkbox"/> 疾患に関すること	<input type="checkbox"/> 治療方法に関すること	<input type="checkbox"/> 急変時対応に関すること
	<input type="checkbox"/> リハビリに関すること	<input type="checkbox"/> 薬剤に関すること	<input type="checkbox"/> 食事に関すること
	<input type="checkbox"/> 日常生活に関すること	<input type="checkbox"/> 療養上の相談	<input type="checkbox"/> セカンドオピニオン
	<input type="checkbox"/> 医療費に関すること	<input type="checkbox"/> 福祉・医療サービスに関すること	<input type="checkbox"/> 就学・就労関連
	<input type="checkbox"/> その他 ( )		
	具体的内容		
相談日時	<input type="checkbox"/> 15:00~ <input type="checkbox"/> 15:30~	相談方法 <input type="checkbox"/> 対面 <input type="checkbox"/> 電話	
相談対応者			
受付者チェックリスト	説明実施	<input type="checkbox"/> 原則1相談につき30分とする <input type="checkbox"/> 来院後、多少お待ちさせる可能性があること <input type="checkbox"/> 駐車場代金は外来診療同様の扱いとなること <input type="checkbox"/> 電話希望の場合：予定時刻にこちらからお電話させていただくこと	
	共有業務	<input type="checkbox"/> 【くじらメール】発信：患者名・相談日時・相談方法・シートナンバー <input type="checkbox"/> トリアージシート保存（写真撮影・専用フォルダに保存）	

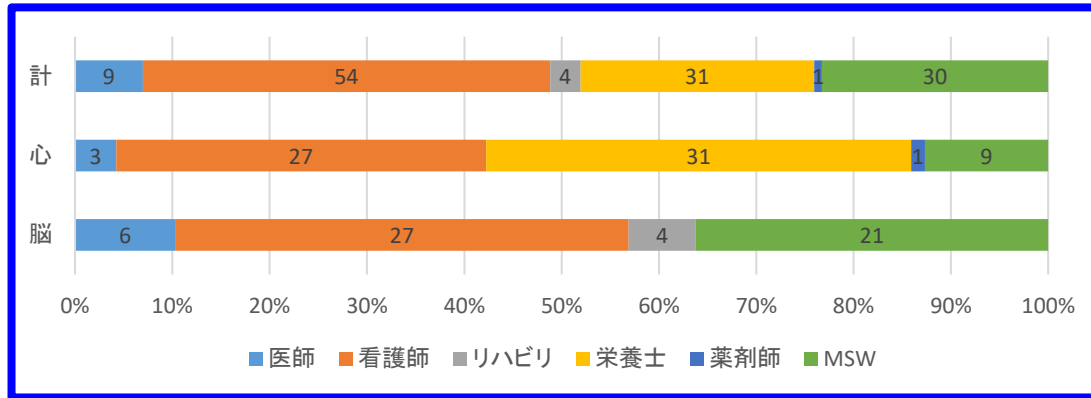
令和4年 9月7日作成



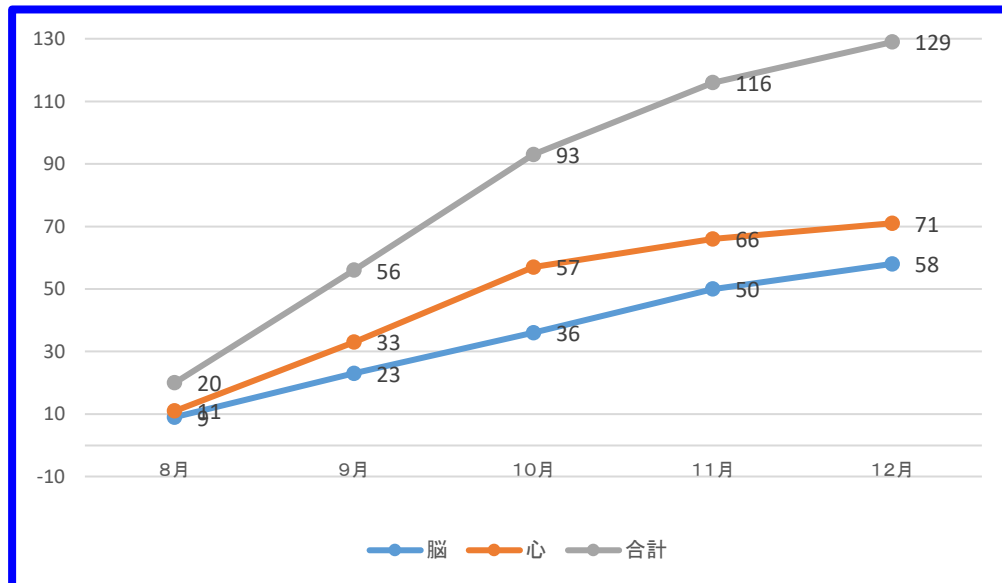
地域連携室担当看護師が窓口となり電話対応  
予約相談日を決定

トリアージおよびフローチャートで担当者、

# モデル事業 脳卒中に関する相談対応者（職種別）

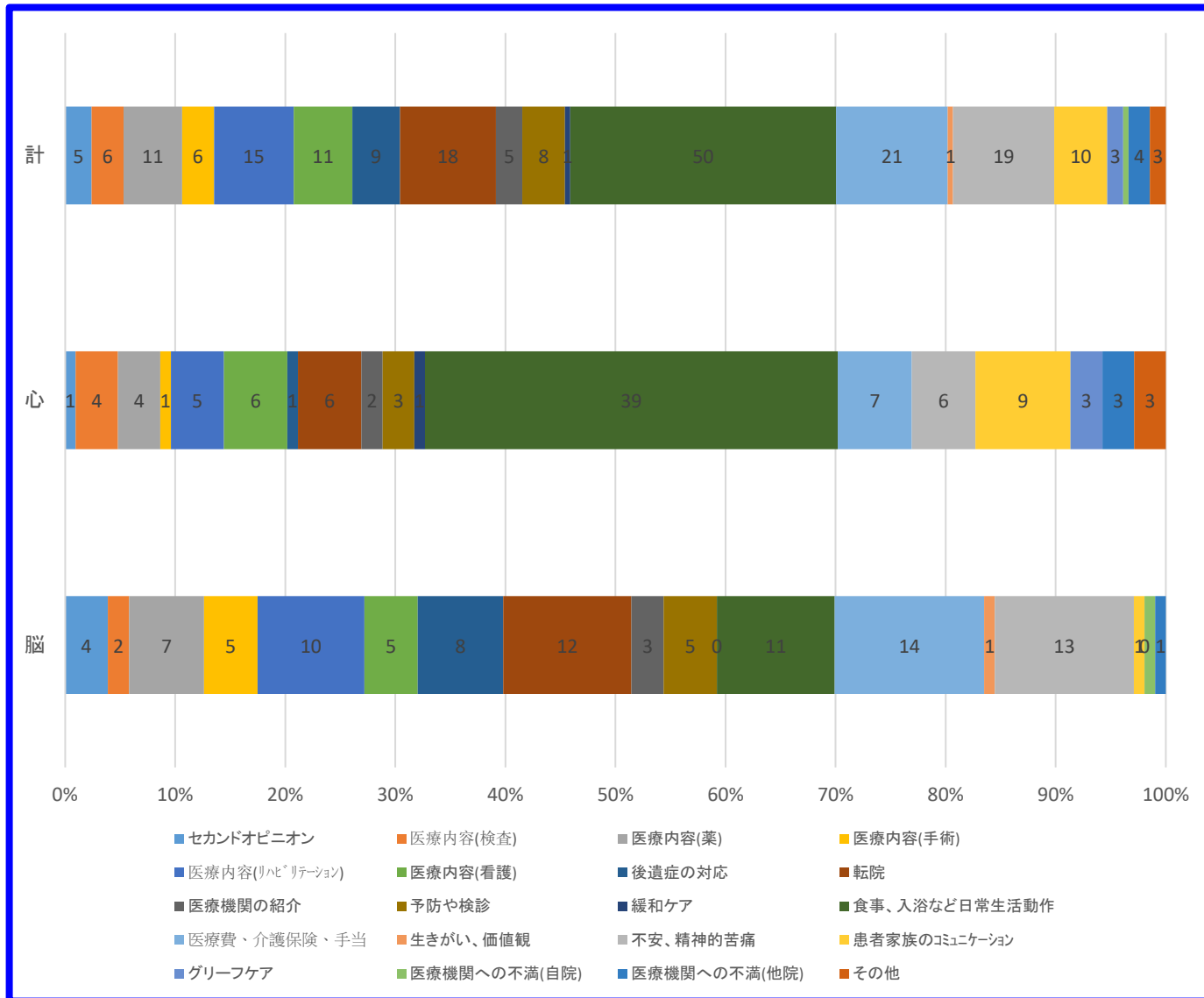


脳卒中の相談対応者では看護師が50%を占め、ついで医療ソーシャルワーカー、医師、リハビリスタッフの順であった



相談者別；脳58人、心71人 計129人

# モデル事業 脳卒中に関する相談対応の内容



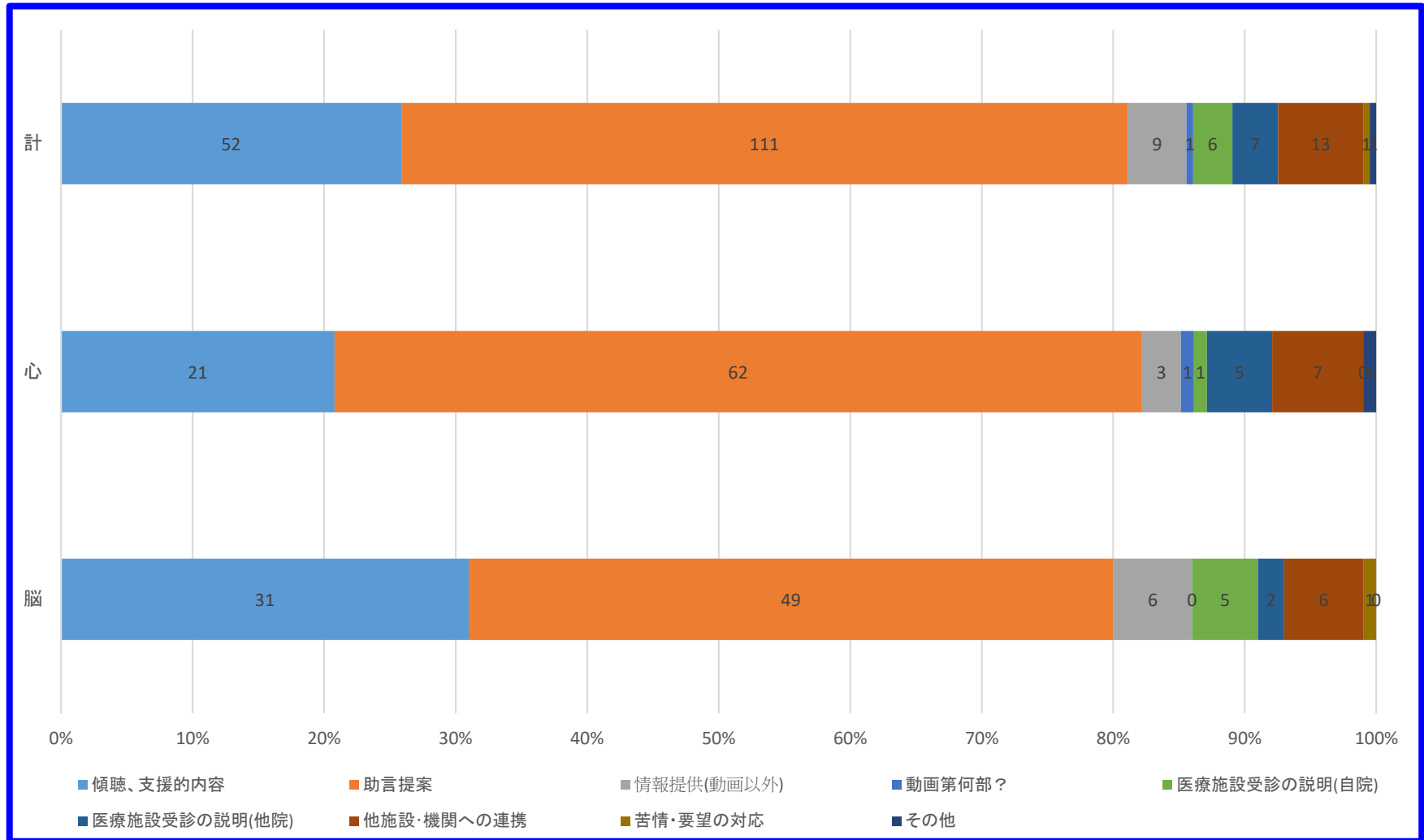
相談内容は脳では、医療費/介護保険/手当についてが多く、ついで不安/精神的苦痛、食事/入浴などADL、転院、リハビリテーションの順であった

内容別 ; 脳103件、心104件 計207件

九州医療センター2022.12月末現在

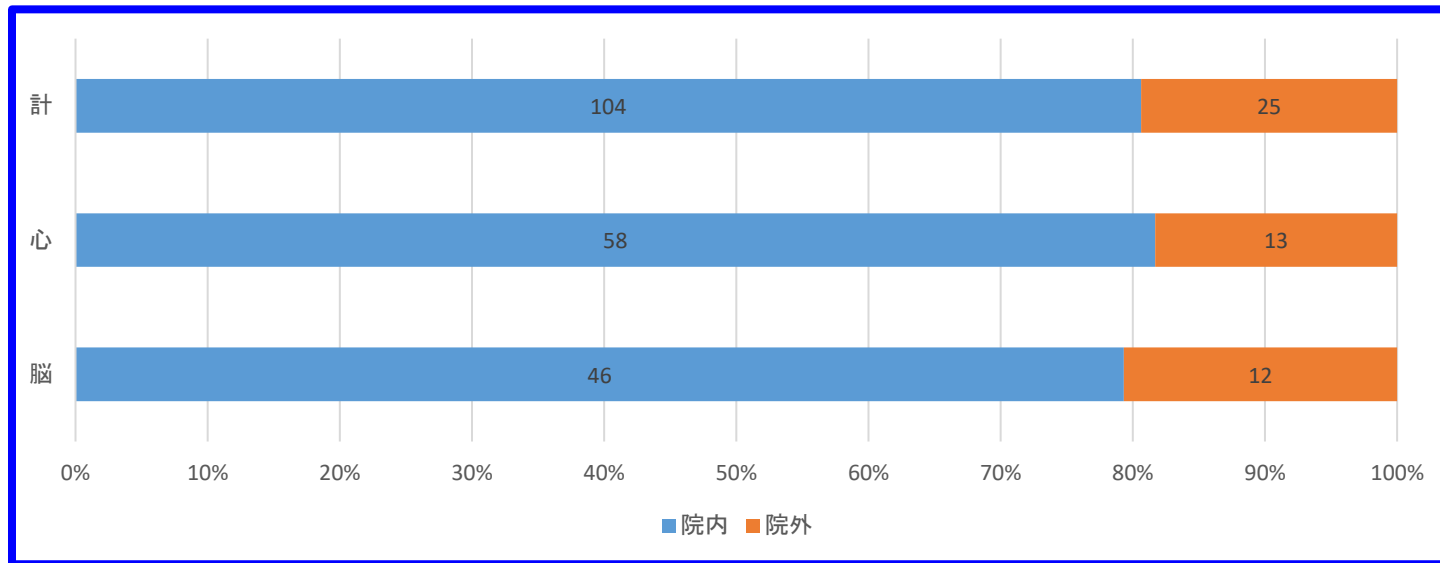


# モデル事業 脳卒中に関する相談への対応内容



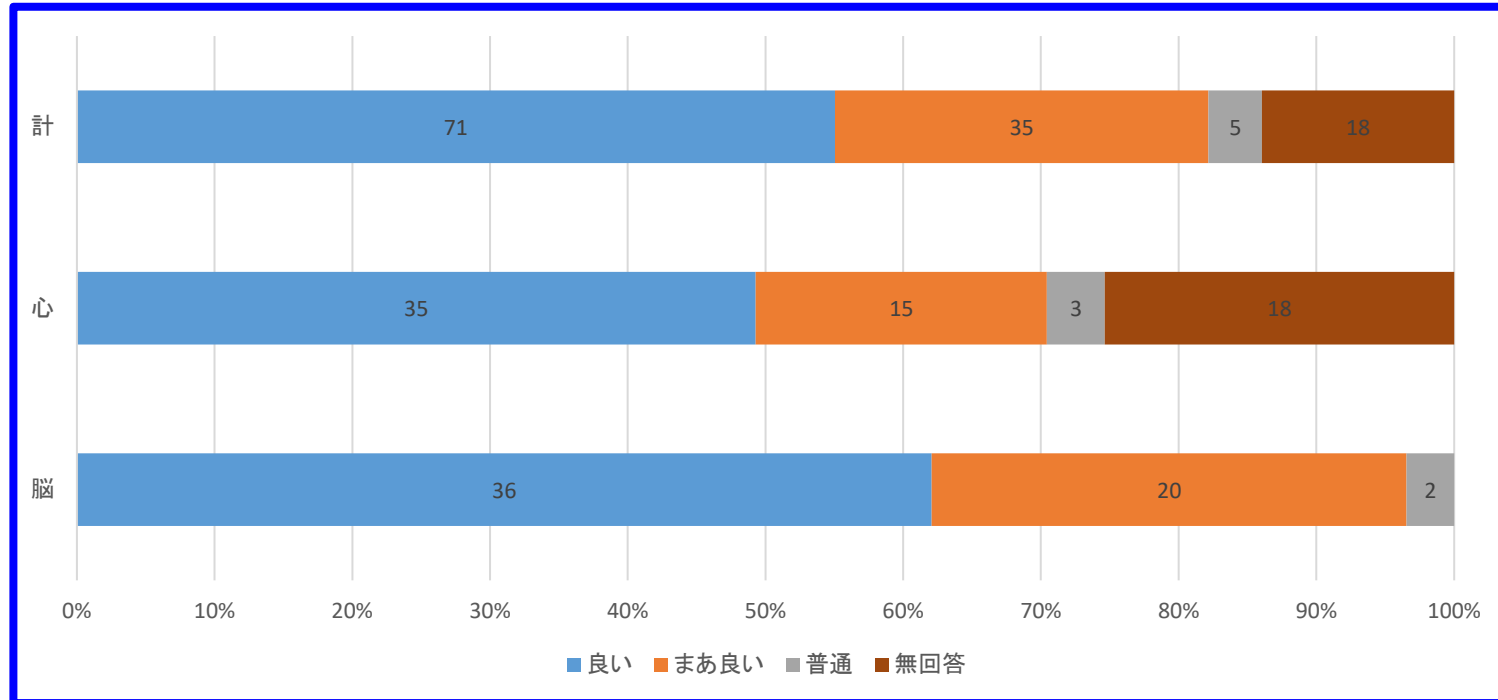
相談対応の内容では助言提案が約半数で傾聴、支援的内容、情報提供、医療施設受診の説明、他施設・期間への連携などが多かった。

# モデル事業 相談者の院内、院外の割合



**相談者の割合は院内入院患者81%、院外19%であった**

# モデル事業 脳卒中に関する相談に対する反応



相談に対する反応では全体では良いが55%、まあ良いが27%、  
脳卒中に関する相談への反応は良い傾向にあった

# モデル事業 医療従事者に対する研修、市民公開講座

令和4年度 福岡県 脳卒中・心臓病等総合支援センター モデル事業

## 九州医療センター 脳卒中・心臓病等総合支援センター 保健師向け学習会

「シームレスな多職種連携を目指すために知っておきたいこと」  
～地域の保健師さんとともに脳卒中・心臓病の患者に寄り添う～

<日 時> 2022年12月12日(月) 18:00～19:00  
<場 所> 国立病院機構九州医療センター 研修室(もしくは講堂)  
<研修対象> 福岡県内の保健師  
<研修形式> 会場とWebのハイブリッド形式  
<参加費> 無料

### 【プログラム】

司会：心臓血管ハイケアセンター看護部長 島居基久

1. 開会挨拶 九州医療センター院長 森田茂樹
2. 脳卒中・心臓病等総合支援センター相談窓口についての情報提供(5分)  
脳血管ハイケアセンター看護部長 田口裕子
3. 疾患講義「心不全はみんなで治療しましょう」(20分) 循環器内科医師 竹中克彦
4. 九州医療センターにおける看護実践～継続看護を充実させる疾病予防、早期発見のポイント～(20分)
  - 1) 脳血管ハイケアセンター 副看護部長 脳卒中療養相談士 木山悟
  - 2) 心臓血管ハイケアセンター 看護師 心不全療養指導士 陣上慶和
5. 事例紹介 九州医療センターにおける地域との連携(10分) 地域医療連携室 MSW 藤崎航介
6. 質疑応答(5分)
7. 閉会挨拶 九州医療センター副院長 岡田 靖

参加ご希望の方は  
こちらからお願いします



【お問い合わせ】九州医療センター 脳卒中・心臓病等総合支援センター  
TEL:092-836-5003(担当:井上)

■主催/独立行政法人国立病院機構 九州医療センター  
■後援/福岡県がん感染症対策疾病課

## 今年度は保健師、かかりつけ医 を対象とした研修会および市民 公開講座を企画実施

2022年10月1日～31日

日本脳卒中協会共催で脳卒中市民公開講座  
2022年12月4日 日循九州地方会久留米  
福岡県循環器病対策協議会協議内容および  
モデル事業の紹介

2022年12月8日 福岡県一次脳卒中センター  
向け福岡県循環器病対策協議会協議内容の  
紹介、脳卒中相談窓口

2022年12月12日 保健師向け学習会

2023年 2月10日 かかりつけ医向け勉強会

2023年 3月16日 日循学術集会 福岡市  
(JCS2023)  
市民公開講座 (共催)

九州医療センター2022.12. 12現在

# 脳卒中・心臓病等総合支援センターモデル事業について

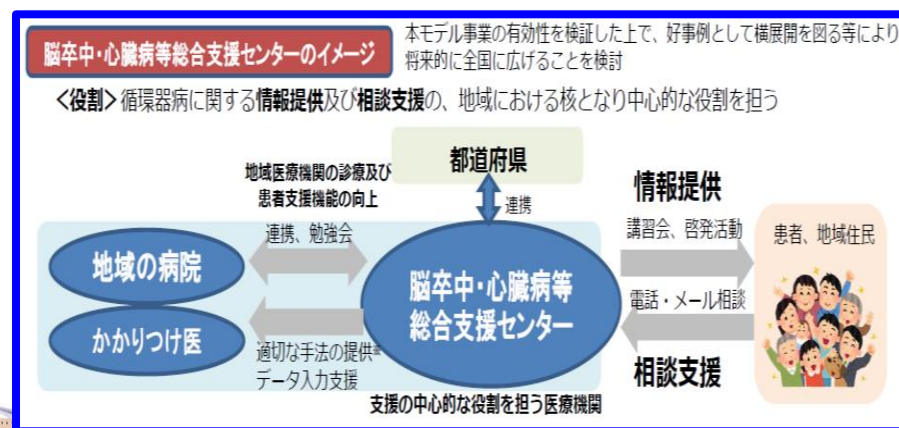
- 厚生労働省の令和4年度事業として
- 全国10自治体、12病院に脳卒中・心臓病等総合支援センターが開設されました。
- 九州医療センターでは福岡県の循環器病対策推進計画と連携して本事業を推進しており、令和4年9月26日より院内に正式にセンターを開設いたしました。



毎日新聞 2022年9月26日

# 脳卒中・心臓病等総合支援センターの役割

- ①循環器病患者・家族の相談支援窓口の設置
- ②地域住民を対象とした循環器病に関する情報提供、普及啓発
- ③地域の医療機関、かかりつけ医を対象とした研修会、勉強会等の開催
- ④相談支援を効率的に行う資材の開発・提供
- ⑤急性期から維持期まで一貫した医療連携支援及び地域包括ケアシステムとの協働
- ⑥就労支援・両立支援
- ⑦移行医療支援



# 相談窓口について

- 対象 脳卒中や心臓病等と診断された患者さん  
とご家族
- 相談は無料
- 予約制（相談時間は約20分間）
- 予約対応時間 平日9：00～16：00
- 専用電話 092-836-5003（直通）
- 相談対応者：医師、薬剤師、管理栄養士、  
リハビリテーションスタッフ、  
医療ソーシャルワーカー  
心不全療養指導士・脳卒中療養相談士
- 相談内容：治療や後遺症について、  
生活上の注意点 など

## 脳卒中・心臓病等総合支援センター 開設のご案内

### 脳卒中・心臓病等総合支援センター開設について

厚生労働省の令和4年度事業として全国10都道府県（福岡県では九州医療センター）に脳卒中・心臓病等総合支援センターが開設されました。

九州医療センターでは福岡県の循環器病対策推進計画と連携して本事業を推進します。

事業の主な内容は脳卒中、心臓病等の患者さんに対する患者相談窓口の設置、福岡県民を対象とした研修会、かかりつけ医と医療従事者に向けた研修会の実施、啓発資料の開発などです。



### 相談窓口について

### 相談無料

患者相談窓口では医師、薬剤師、管理栄養士、リハビリテーションスタッフ、医療ソーシャルワーカー、脳卒中・心臓病等担当看護師が、脳卒中や心臓病等と診断された患者さんとご家族の生活上の注意点、療養場所、後遺症や仕事と治療のことなど、様々な疑問や不安に対し、お話を聞かせていただき、悩みに応じた解決策を一緒に考えていく支援を行っています。

### 受付時間

平日9:00～16:00（予約制）  
TEL：092-836-5003

### 対応窓口

地域連携室看護師  
※入院中の方は病棟看護師



独立行政法人 国立病院機構九州医療センター

〒810-8563  
福岡市中央区地行浜1丁目8番1号



# 相談窓口 ご利用までの流れ

- 1.電話で予約を取ります 092-836-5003（直通）  
対応窓口：地域連携室 看護師
- 2.相談内容に応じて対応者（医師や看護師、管理栄養士など）  
を決め、面談の予約を取ります
- 3.予約された日時に面談を行います（対面または電話）





# 福岡県の脳卒中・循環器病の特徴

- 脳卒中・心疾患の死亡率は低い
- 平均寿命と健康寿命の差が大きい
- 救急搬送時間は短い
- 医療提供体制は急性期・回復期とも充実
- 特定健診・特定保健指導受診率は低い
- 医療費は高い

福岡県では特定検診・特定保健指導受診率が全国平均より低く、とくに脳卒中・循環器領域では保健師の活動がきわめて重要です。生活習慣の改善、血圧、血糖の管理、心房細動の早期検出と医療機関の受診勧奨、脳卒中・心不全の予防、再発・重症化予防などが必要であり、本日の研修会が今後の活動のご参考になれば幸いです。



福岡県

循環器病（脳卒中・心臓病など）患者をはじめ、誰もがより長く元気に活躍できる社会の実現を目指して

福岡県循環器病対策推進計画

2022→2023  
令和4年度 令和5年度

## まとめ

1. 福岡県は医療資源が豊富で救急医療体制、脳卒中医療体制も整備されているが、地域格差がある
2. 特定健診、特定保健指導の実施率が全国平均以下で県民の平均寿命と健康寿命の格差が大きい
3. 福岡県循環器病対策推進計画は多職種による患者支援を個別目標に令和4、5年は施行・検証の時期
4. 脳卒中・心臓病等総合支援モデル事業は九州医療センターが役割を担い、福岡県および県内大学病院と連携しながら、県民・県内医療機関全体への脳卒中・心臓病の予防啓発と患者支援機能（相談事業等）の強化、脳卒中・心臓病医療への多職種による連携強化を推進する

# 脳梗塞患者さんの急性期病院退院前の相談の例

## 退院のときに聞いておきたいこと

1. 退院後の治療、生活上の注意、今後の見通し
2. リハビリ専門病院をいくつか紹介してもらえますか？
3. リハビリ専門病院にはどのくらいの期間入院することになりますか？
4. 自宅近くのかかりつけ医を紹介してもらえますか？
5. 退院後もこちらで定期的に検査を受けたいのですが

## 薬への不安

1. 薬はずっと飲み続けなければいけないのですか？

## 専門医やかかりつけ医とどうつきあいますか？

1. 自宅に退院後はかかりつけ医が中心となります
2. 専門医とかかりつけ医をつなぐ地域連携パスがあります

## 病状回復への不安

1. 6カ月を過ぎたら元にもどらないのですか？
2. 失語症など高次脳機能障害は6か月後も回復が期待できます。  
ダメージを受けた部分を補うように神経線維のバイパスができる、  
こうした変化をイメージしてリハビリを続けると励みになります。



## 再発の不安

1. 再発しやすいかどうか、定期検査でわかるのですか？
2. 半年から1年に1回、専門医療機関で検査を受けて変化や再発の兆候がなければ自信につながります。

## 自立できる環境づくりに何が必要でしょうか？

1. 退院する前に一時帰宅で実際の生活を試してみる
2. 転倒対策を考える

## 脳梗塞が起こると認知症になるの？

1. 脳梗塞を発症≠認知症になる
2. 脳梗塞再発を繰り返すと血管性認知症になる可能性があります
3. 脳梗塞の再発予防は認知症予防にもつながります。

## 持病への不安

1. 無関係に見える診療科でも注意が必要
2. 歯科、消化器科、整形外科、泌尿器科



# 自宅でできる安全なリハビリ

## 下肢のリハビリ運動

股関節や膝関節、足首の関節を伸ばし広げるリハビリです。関節の可動域を維持すると同時に下肢の筋力がつくことで、立ち上がりやすくなる機能の向上につながります。食事の際、テーブルについたときにスクワットを行うなど、日常生活に組み込むとよいでしょう。

目安

10回  
×  
1日3セット

### スクワット

1 いすに座り、足は肩幅に開いて立ち上がる

背もたれのあるいすで行う

机などに手を置いてバランスをとる

できるだけ脚の力を使って立ち上がる



2  
ひと呼吸おいて、いすに座る

ゆっくり座る



肩幅の広さに開く

いすの高さが低い場合は、クッションなどを置いて調節する



軽い麻痺があると、内反（うちむき）といって足先が内側に向くことがあります。足の裏をしっかりと床につけて行いましょう

1と2を繰り返す

※いすは安定したものを使用し、平足で薄らばい履物に履いて行いましょう。

## ゴムバンドトレーニング

### 足の曲げ伸ばし

目安

右脚・左脚  
5回ずつで1セット  
×  
1日3セット

### ゴムバンドの持ち方



手に巻きつけて持つ



### ゴムバンド

伸縮性のあるトレーニング用のバンド。特殊なラテックス（天然ゴム）できているものは、リハビリや健康維持体操などでよく使われている。

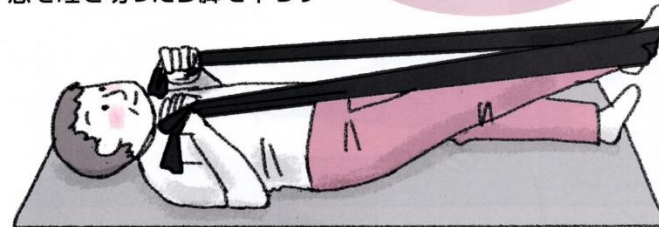
1 マットの上におおむけになり、膝を曲げてゴムバンドを足にかける



背中を痛めないようマットの上で行う

2 息を吐きながら脚を伸ばす。息を吐き切ったら脚を下ろす

麻痺がある場合は、できるところまで伸ばす



1と2を5回繰り返したら、反対の脚も同様に行う



# 急性期から在宅まで 再発予防の習慣チェックと医療連携

## 再発予防の習慣チェック!

□の習慣すべてにチェックがつくように頑張りましょう。  
下の2つの□にチェックがついた人は注意が必要です。担当医に相談して、すぐに治療や生活改善に取り組む必要があります。

- 処方された薬は指示どおり服用していますか?
- 血圧は毎日測り、記録していますか?
- 血圧・血糖・脂質の値は、基準範囲を維持できていますか?
- リハビリは毎日続けていますか?
- できるだけ日常生活で体を動かすことを心がけていますか?
- 禁煙を続けていますか?
- 日本酒なら1日1合まで。アルコールの摂取量を適量以下に守れていますか?
- 前向きな気持ち(今日は1つこれをやろう!)で毎日を送れていますか?
- 定期的にかかりつけ医を受診していますか?
- 気になることや生活上の困り事は医師や医療関係者に相談していますか?
- 水分補給を心がけていますか?

中年なら内臓脂肪型肥満でメタボリックシンドロームに、後期高齢者なら低栄養・筋肉減少でフレイル(虚弱状態)に該当していませんか?

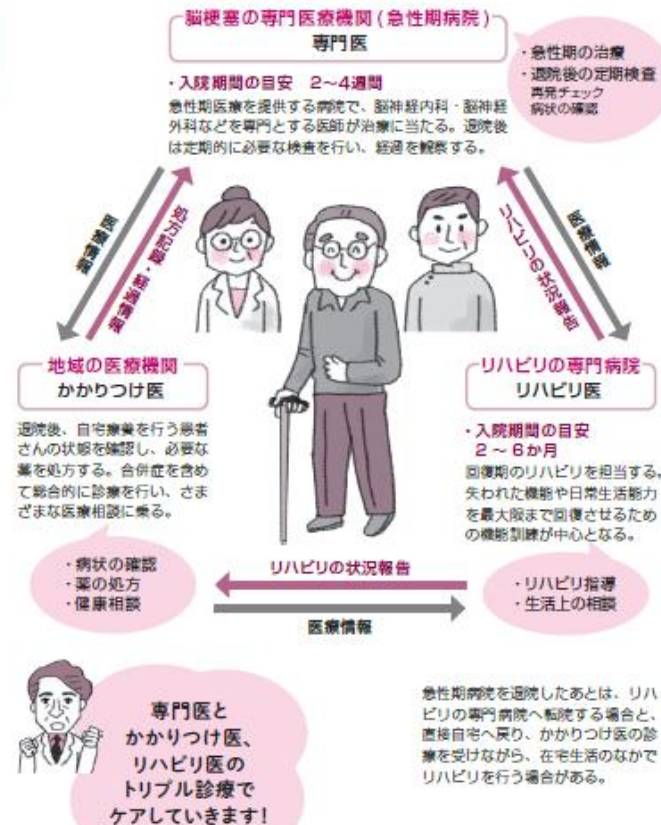
「いびきがうるさい」「睡眠中、一時的に息が止まっている」と言われたことはありませんか?



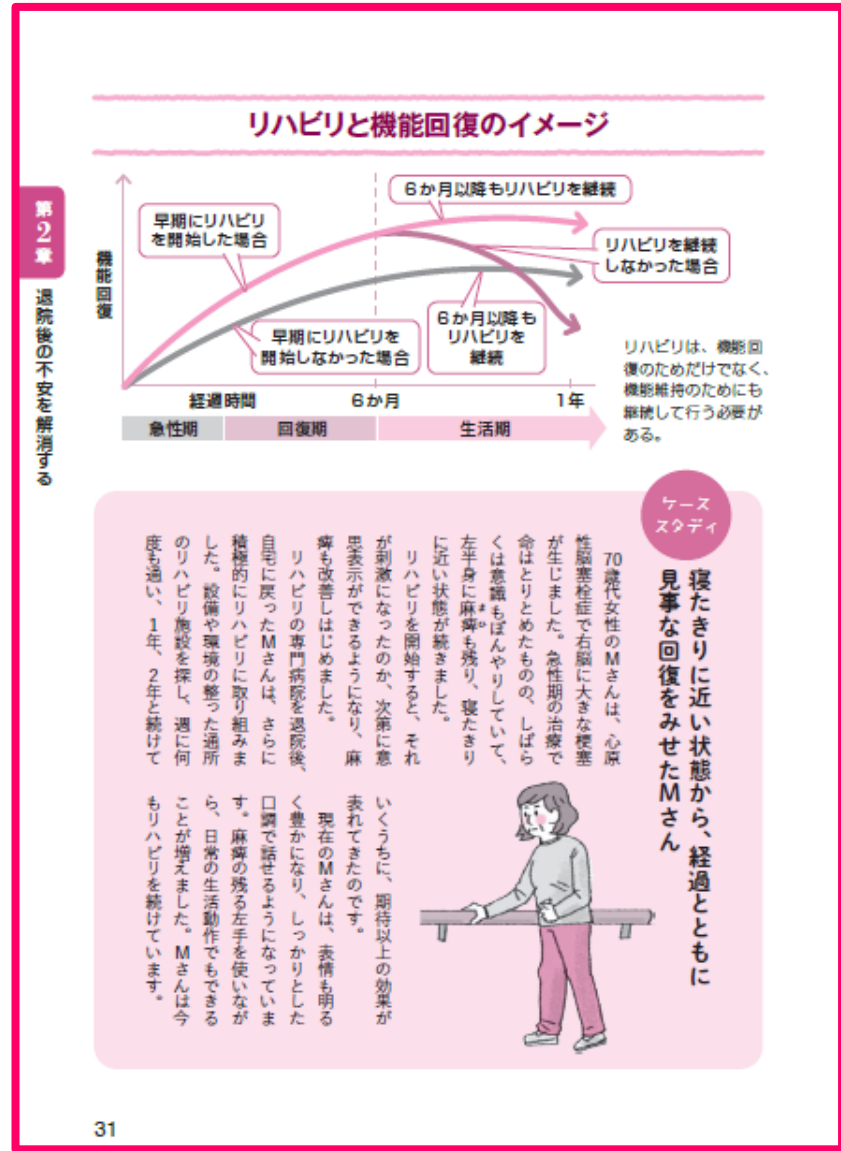
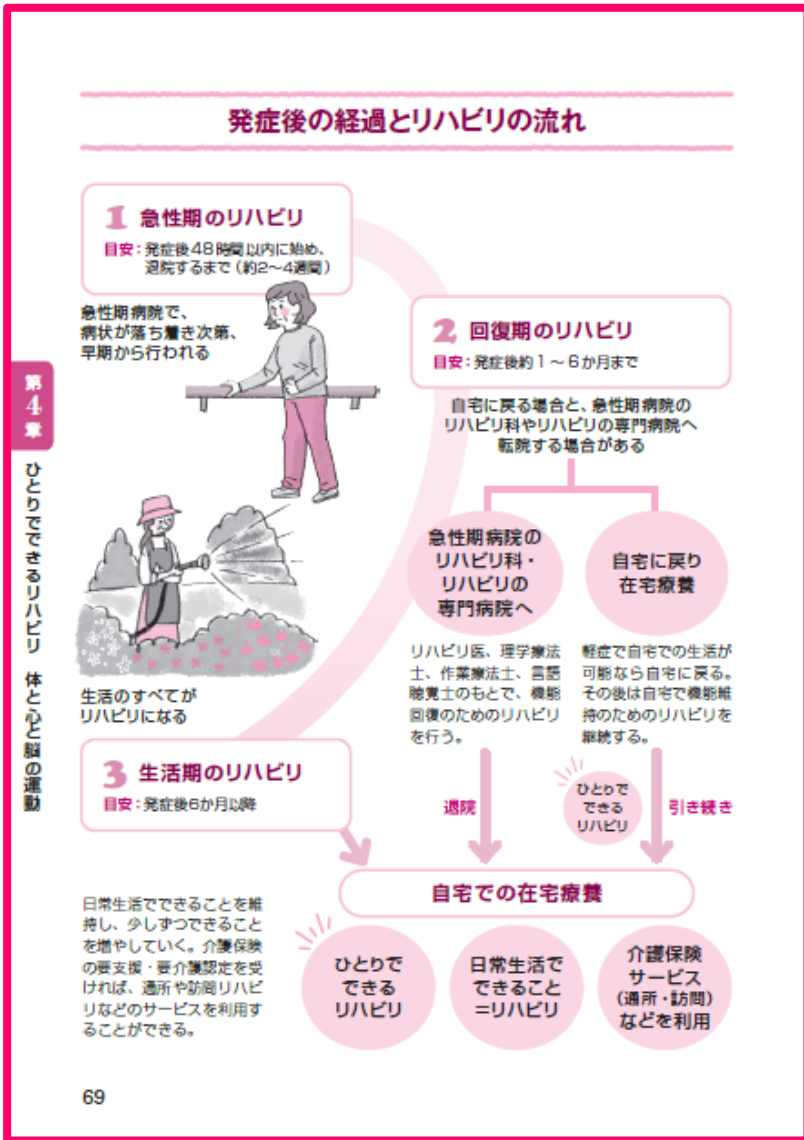
時々振り返って、  
チェックするように  
しましょう

## 患者さんを支える医療機関の連携

第2章 退院後の不安を解消する



# 急性期から在宅まで リハビリテーションの流れ



# スタート！脳卒中相談窓口



NHKきょうの健康ニュース 2023年2月2日NHKエデュケーショナル放映



# スタート! 脳卒中相談窓口

脳卒中による死亡者  
年間10万人

令和2年度厚生労働省 人口動態調査

## 後遺症は?

- 運動機能のマヒや感覚機能の低下
- 認知機能障害
- えん下障害
- 排せつ障害 など

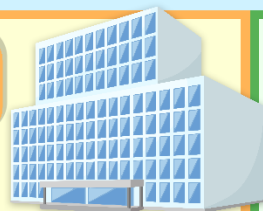


## 寝たきりの原因

- 1位 脳卒中
- 2位 認知症
- 3位 骨折・転倒

厚生労働省2019年 国民生活基礎調査の概況

## 脳卒中 相談窓口とは?



- 大学病院や中核病院に設置
- 全国に約250か所
- 現在は無料で利用できる
- 通院や入院している患者さん以外で利用可能な施設も
- 対面または電話
- 事前に電話で予約

## 脳卒中療養相談士



誤えんしないよう  
つぶした食事を  
つくっています  
しかし 外食では  
そのまま  
出てきてしまいます  
どうしたらよいでしょう?

働いていないと  
収入が  
なくなってしまうので  
平日の  
受診が難しいです

飲食店の再開を  
目指していましたが  
家で転倒して以来  
歩きにくくなりました  
もう包丁を  
持てないのでは  
と不安です

# スタート！脳卒中相談窓口

脳卒中療養相談士・・・  
どんな資格を持った方なのでしょう？

脳卒中の医療に関わる医療従事者で、脳卒中学会が行う研修を受講した方  
看護師、医療ソーシャルワーカーが中心的な役割を担います  
再発予防のための生活指導や就労支援、介護サービスの紹介やリハビリ方法  
など、幅広い相談にお答えできる研修を受けた人材です。

これまでそうした相談に一定の情報を提供できる人材がいなかったため  
患者さんやご家族が苦勞することが多かったと聞きます。  
介護サービスの申請をどのように行うかなどにも相談にのってくれます。

## スタート！脳卒中相談窓口

**質問 1 誤嚥しないようつぶした食事を作っています。  
しかし外食ではそのまま出てきてしまいます。  
どうしたらよいでしょう？  
嚥下障害の質問**

**この相談には看護師と管理栄養士が対応しています  
薬局などで購入した「とろみ粉」を外食の際に携行  
毎日、自炊するのが大変な場合は宅配サービスを紹介  
再発予防で食事内容で気を付けたいのは、コンビニの  
お弁当では塩分とカロリーに注意してください など**

## スタート！脳卒中相談窓口

**質問2 働いていないと収入がなくなってしまうので、平日の受診が難しいです。どうすればよいでしょうか？  
経済面での悩み**

**この相談には医師が対応し、受診頻度やくすりの必要性を検討します  
また医療ソーシャルワーカーに連絡し、利用できる福祉サービスなどを紹介します  
また、薬が高いので自己中断し、再発で再入院し、薬を服用していなかったことが判明したケースでは、医師より継続の重要性を説明し、代替できるより安価な薬があれば検討します**

## スタート！脳卒中相談窓口

**質問3 飲食店の再開をめざしていましたが、家で転倒して以来、歩きにくくなりました。もう包丁をもてないのではないかと心配です。  
リハビリの質問**

**この相談にはリハビリスタッフが対応しています  
転倒の原因を探り、自宅でできるリハビリを紹介しました**

**また、体が不自由な中で、トイレに何度もいかななくてはならないという悩みを抱えている方には、てすりを付けることを提案したり、転倒の予防法などを指導しています**

# スタート！脳卒中相談窓口

相談窓口をはじめてみて思うことは？  
これからの課題は？

**こちらが考えていた困りごとと、患者さんの実際の困りごとが  
違う場合が多いです。**

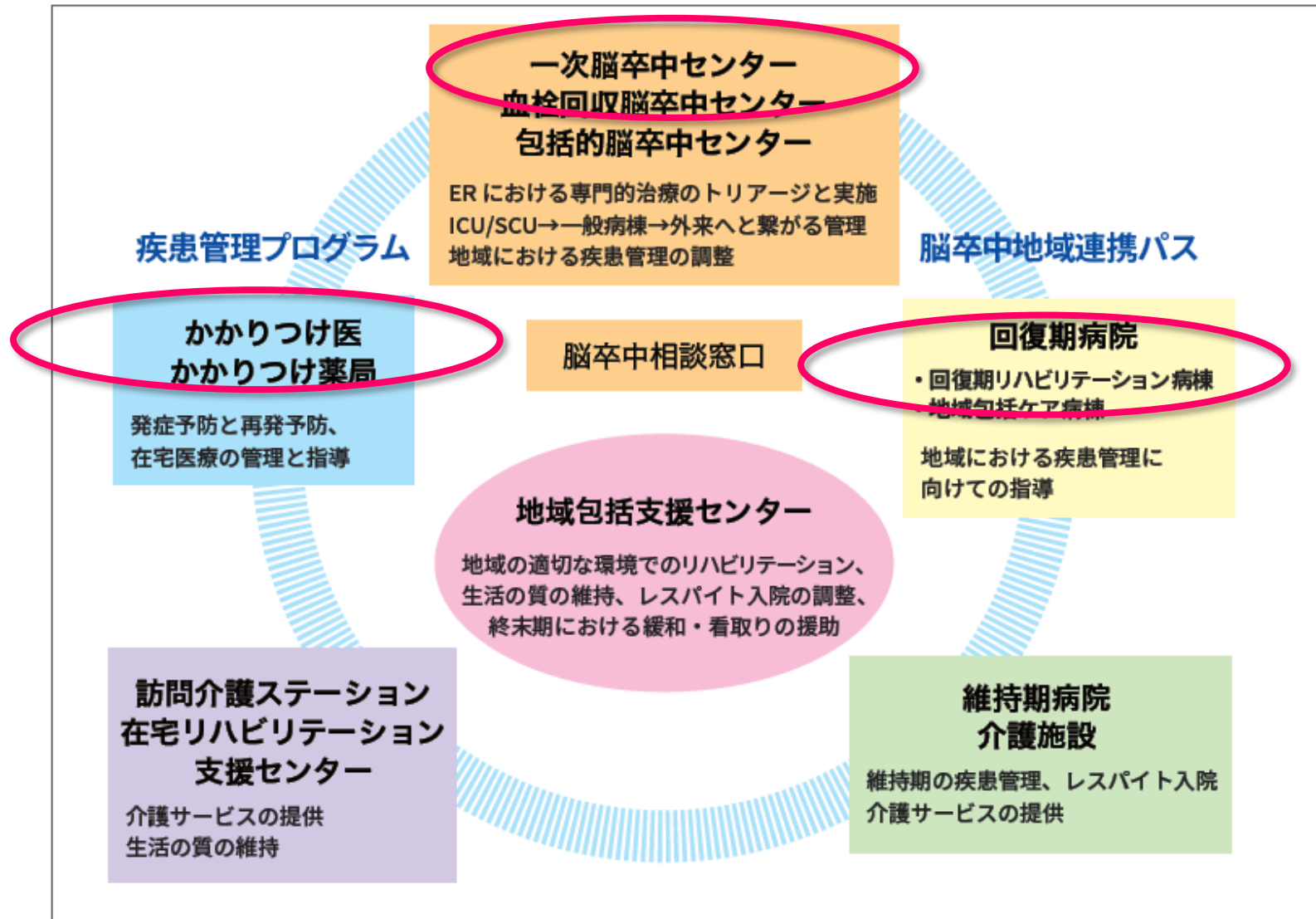
病院内で歩いていた人が自宅で転倒したりする。

生活というのは、私たちが思っているよりはるかに複雑で、  
難しいことです。

治療やリハビリだけで生活しているわけではありません。

ある程度、障害が残った中で、どう社会参加するか、就労支援  
していくか、などが今後の課題です。

# 脳卒中における循環型の医療・介護体制の整備



# 専門施設における早急な診断と適切な治療、 患者・家族への説明と相談支援が重要です



発症直後に脳卒中専門施設へ搬送

チーム医療・組織医療※の実践

画像検査, rt-PA・血管内治療へ対応

早急な診断と適切な治療

患者家族への説明と相談支援※※

※組織医療とは脳卒中センター組織が理念・使命の実現に向け、価値・行動規範を共有し、適正かつ安全で有効性を最大化する医療のプロセスであり、継続して組織の医療の質を改善していくこと

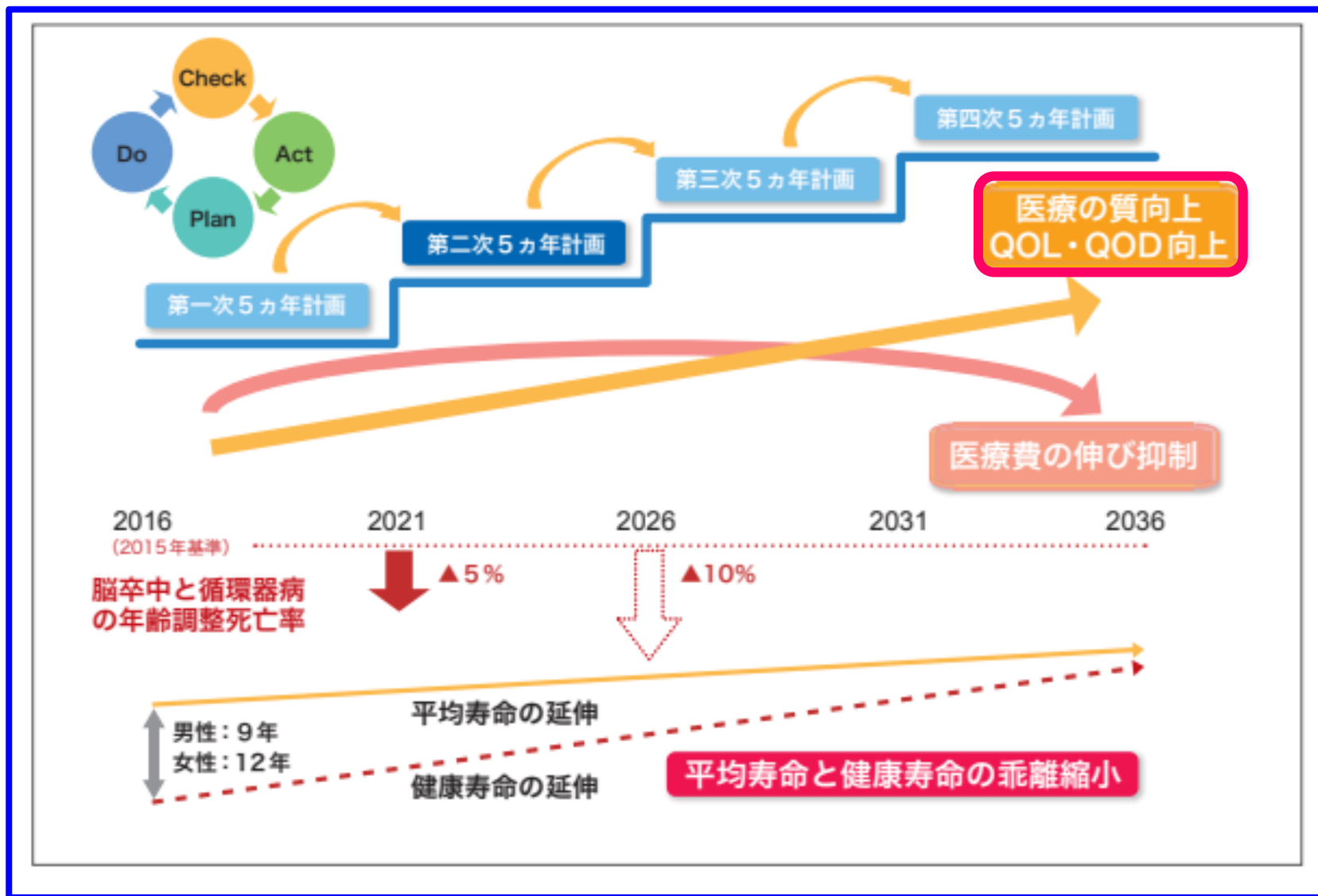
※※急性期医療施設から患者家族の困りごとや疑問に適切な説明と相談支援を行う体制を構築する

監修：日本脳卒中協会

岡田 靖（国立病院機構九州医療センター）



# 脳卒中・循環器病5か年計画が目指すもの



脳卒中と循環器病克服第二次5か年計画 ストップCVD（脳心血管病）  
健康長寿を達成するために 2021循環器病総合支援センターモデル事業